

令和2年度 学校教育自己診断結果について

(1)「確かな学力」の育成

本校では、「確かな学力」を保障するために、学習への興味・関心を持たせ、「わかる」授業づくりを通して基礎学力の定着、自ら学習する態度を養うこと。「主体的・対話的で深い学び」をめざし、グループワークや発表を取り入れ、言語活動を充実させようとした。

学習指導に関する設問では、「教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定的評価が、H30年度55.1%、元年度66.0%、2年度73.8%で増加を続けている。「いろいろな体験を通して学ぶ機会がある」の肯定的評価も、H30年度50.4%、元年度57.6%、2年度66.7%で増加が続く。「自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」では肯定的評価が、H30年度53.3%、元年度64.7%、2年度71.8%とこれについても増加を示している。総合学科に改編され4年が経過し、「産業社会と人間（1年）」をはじめ、「総合学科科目（2, 3年）」や「総合的な学習（探求）の時間（2, 3年）」、「課題研究（3年）」での探求的な学習活動や発表を行う機会が増えていることが数値の上昇につながっている。学校全体として探求的な学びをさらに発展させていくために、カリキュラムの整理やICT環境の整備、施設調整に努めたい。

一方、コロナ禍における学習形態については課題がみられた。教員アンケートで「グループ学習を行なうなど、学習形態の工夫・改善を行なっている。」では、H29年度83.4%、H30年度82.8%、元年度100%と高い水準を維持していたが、2年度は65.2%まで落ち込んだ。これまで重点的に取り組んできた「グループ活動の充実」について制限がかかる中、新しい学習のかたちを模索するきっかけとなる一年であった。生徒の「授業は分かりやすい」では、H30年度67.9%、元年度74.6%、2年度76.9%で増加率こそ少ないが、増加を維持することができている。コロナ禍で苦境に立たされながらも、学習指導に関してはすべての項目で前年度の数値を上回ることができた。一方で、「騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」では、H29年度22.9%、H30年度27.2%、元年度30.6%、2年度36.2%と年々増加傾向にはあるが、まだまだ課題がみられる数値となった。学習に対して前向きに、当事者意識をもって臨むことが卒業してからも求められる課題解決能力の基盤となる。学びに向かう環境づくりの一環としても授業規律やマナーについての指導を継続して行う必要がある。

学習指導に関する肯定的評価が増加の傾向を見せている今だからこそ、かたちだけの「アクティブ」ではなく、情意や意識、知識習得や理解も含めた「主体的で対話的な深い学び」の達成をめざした授業改善が必要と考えられる。

(2) 将来の目標に向かって努力する生徒の育成

①基本的な生活習慣の形成を図り、規範意識の醸成、高校生として望ましい態度とマナーの育成するために、遅刻・欠席等の状況改善と授業規律の確立および生徒一人ひとりの課題を踏まえ、理解と納得に基づく生徒指導、②キャリア教育の充実を図り、進路意識を高め自己実現の支援を努めてきた。

①生徒指導に関する設問では、「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」の肯定的評価がH30年度61.1%、元年度63.2%、2年度76.1%でここ数年の横ばいから大きく増加した。一方で、「学校生活についての先生の指導に納得できる」が全体で57.7%、「先生は生徒の意見をよく聞いてくれる」は、全体63.0%となり、全体の雰囲気として「指導に力を入れている」が「指導に対する納得感はもうひとつ」と感じている生徒が多い。また、自由記述アンケートにも学年や個人に対する不公平感を示す生徒が見受けられた。保護者アンケート「先生は、子どものまちがった行動をきちんと指導してくれる」では、H30年度73.9%、元年度77.6%、2年度80.0%で少しずつ増加しており、「生徒指導の方針に共感できる」では74.7%の保護者から肯定的評価を得ている。生徒だけでなく保護者の理解や納得、協力をなくして生徒指導は成り立たない。三者での対話・コミュニケーションの機会を増やすことが必要である。

②進路指導に関しては、「進学、就職についての情報」では、H30年度 72.0%、元年度 76.9%、2年度 80.7%で進路指導が定着している。「将来の進路や生き方について考える機会がある」については、H29年度 77.7%、元年度 81.1%、2年度 85.2%を示し、GSの授業やLHRにおけるキャリア教育が充実してきたものと考えられる。年度当初の休校により、授業やLHR、進路指導に関する年間計画の大幅な変更を余儀なくされたが、進路指導部を中心として関連部署間で調整をしながら連動して指導を行うことができた。

教育相談に関しては、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」という設問にも H30 年度 63.2%、元年度 70.0%、2年度 74.7%と増加が続いている。「生徒の進路について、真剣に相談に乗ってくれる」が、H30 年度 72.0%、元年度 75.8%、2年度 81.6%で、進路ガイダンス、保護者懇談での話題が充実して機能していることを示している。ただ、家庭環境や経済状況が厳しさを増す中、教員が生徒の生活に寄り添った関わりも必要とされる。高大接続改革やコロナ禍における高卒求人採用計画の見直しなど、ここ数年は高校生の進路指導については大きな変革の時代といえる。生徒の悩みの相談に乗りながら一人ひとりの課題に応え、社会へ送り出す指導・支援ができるよう、教員の資質向上のための研修や体制づくり、環境整備が必要である。

(3) 安全安心で魅力ある学校づくり

自らの課題に向き合い、生徒同士がつながる取組みを推進するために、①生徒の協調性や自主性を育む集団づくり、校内環境の整備や部活動の活性化、②あらゆる教育活動を通じた人権教育や個別支援の必要な生徒の状況改善、③地域とつながる取組み等の推進を行ってきた。

「自分の学級は楽しい」について H30 年度 67.3%、元年度 72.2%、2年度 76.9%と増加している。保護者の「子どもは、高校へ行くのを楽しみにしている」が、H29 年度 80.8%、H30 年度 70.8%、元年度 68.9%、2年度 78.1%と3年前に近づく回復を示した。また、「先生は子どものことをよく理解している」71.6%や、「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる」71.3%など、例年とほぼ同じ数値ではあるが高い数値とはいえない。学校外で見せる生徒の本音や悩み事、行動などについて、保護者が安心して学校と連携できる関係づくりが必要である。

人権教育に関しては、人権企画で「いじめ」について H25 年度より取組みを行っている。「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」という項目で、肯定的評価が H30 年度 70.6%、元年度 73.9%、2年度 81.0%と増加を続けている。また、「伯太高校で行っている人権教育は、あなたの学びたいことに応えている」は、H30 年度 58.9%、元年度 65.1%、2年度 73.5%と年々増加している。人権教育が3年間の見通しを持ち、GSの授業やLHR、講演会などを通して広く継続的に展開されている。

「伯太高校へ入学してよかった」と答えたのは、H29 年度 66.2%、H30 年度 61.6%、元年度 68.3%、元年度 77.0%と上昇し、「学校に行くのが楽しい」についても H30 年度 57.4%、元年度 63.1%、2年度 65.4%と昨年より増加した。学習指導や進路指導、人権教育など、多くの面で肯定的な評価が回復したり増加したりしている。学校生活を前向きに過ごす生徒が増えてきていることが考察できる。

学校行事や地域との連携については、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた。行事予定の見直しや安全安心を最優先する観点から、体育祭の秋開催や文化祭の縮小開催、修学旅行やPTA行事の中止など例年になく対応をおこなった。そのような中でも、学校行事を可能な形で実施し、体育祭 81.8%、文化祭 81.4%の肯定的評価を得ることができた。学校行事や生徒会活動、部活動が学校生活や人間関係作りに与える影響は大きい。今後もより一層の支援を続けていく必要がある。

校内美化については昨年度後半期に行われた一部トイレの改修の影響もあり、肯定的評価が 76.2%と増加した。日ごろの清掃やマナーについて個人が丁寧に心がけることで、生徒が自ら気持ちよく過ごすことのできる学びの環境を維持したい。

伯太高校を選んだ理由に関しては、3項目選ぶ形式でアンケートを実施した。

1～2位ほぼ同率で「自宅から近いから」「総合学科だから(H30年度 13.3%、元年度 14.4%、2年度 18.4%)」、3位「制服が気に入ったから」と例年と大きな違いは見られなかったが、総合学科であることが学校選びの大きな要素になりつつある。課題研究や総合学科科目など、特色ある教育活動が展開されている。近隣の中学校や地域との連携、情報発信を更に強めていくことで生徒の学力保障、進路保障を進めていく必要がある。